【概要版】

沖縄空手振興ビジョン
ロードマップ
(第１期：2018年度～2022年度)

2019年３月

沖縄県

1．ロードマップについて

■沖縄が世界に誇る伝統文化である空手の保存・継承・発展を図る取組を戦略的に展開するため、県、空手関係団体、経済界等の様々な分野が一体となって、20年後のめざすべき将来像を描いた「沖縄空手振興ビジョン」を2018年３月に策定した。

■ビジョンで定めた3つの将来像の実現に向けて、その具体的な工程等となる「沖縄空手振興ビジョンロードマップ」を策定し、関係機関が密な連携を図り認識を共有しながら、各種施策を計画的かつ能率的に推進する。

2．ロードマップの期間

■2018年度から2022年度までの５年間を第１期の計画期間とする。

沖縄空手振興ビジョン
（2018年度～2037年度）

＜3つの将来像＞

【保存・継承】 空手の型に秘められた精緻な技と平和を希求し礼節を重んじる精神性が正しく次世代に受け継がれている。

【普及・啓発】 空手を取り巻く環境変化を的確に捉えた施策展開により世界の空手家が「空手発祥の地・沖縄」を認識

【振興・発展】 空手家が豊かな人生を歩む「空手の聖地・沖縄」が確立されて空手による産業振興が図られている。

沖縄空手振興ビジョンロードマップ
（第１期：2018年度～2022年度）

- 13の主要施策と48の施策項目で構成
- 施策毎に年度別の具体的な取組内容を示し、成果目標を設定
- PDCA等による進捗管理を実施

3．成果指標

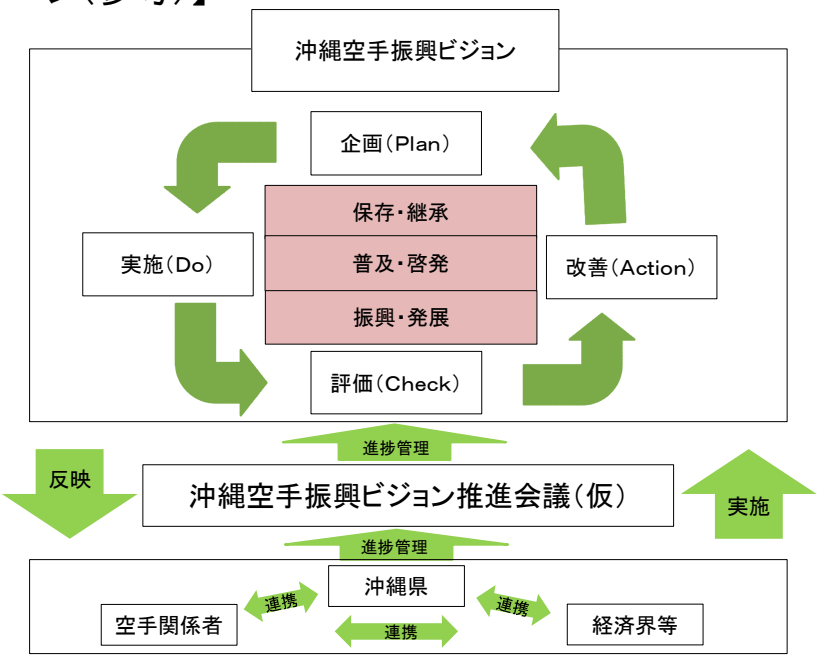
■ビジョンを実現するための軸となる4つの主な成果指標を設定
■当該4指標を軸として各分野における成果指標を設定

項目	現状	１年後（2018年度）	２年後（2019年度）	３年後（2020年度）	４年後（2021年度）	５年後（2022年度）
県外・海外からの空手関係者来訪数	6,453人（2017年度）	6,900人	7,900人	8,900人	9,400人	10,500人
県外における「空手発祥の地・沖縄」の認知率	34%（2016年度）	37%	40%	43%	46%	49%
県内道場数	369道場（2016年度）	369道場	369道場	369道場	371道場	373道場
県内道場の門下生数（平均）	32人（2016年度）	32人	32人	32人	33人	34人

4．進捗管理

■空手関係団体や経済界等の関係機関と調整を図り、ロードマップを着実に推進するためのPDCAサイクル等による進捗管理体制の構築に向けて取り組む。

【推進体制のイメージ（参考）】



５．基本戦略及び分野別の施策展開

■ロードマップの目標達成のため、空手関係者をはじめ、県、経済界等が認識を共有し、密に連携を図り、戦略的に取り組む。

早急に取り組むべき施策

●沖縄伝統空手道振興会の運営基盤の強化（法人化等）

●沖縄空手のユネスコ無形文化遺産登録に向けた取組

保存・継承

●振興会や県内道場の運営基盤の強化を図り、自立的な運営に向けた仕組みを確立するとともに、ユネスコ無形文化遺産への登録、沖縄空手国際大会の定期開催、公認段位制度の検討等に繋げる。

●振興会が中心的な実施主体になると想定される取組が多いことから、同会の組織運営基盤の強化に優先的に取り組み、その上で、道場の運営基盤の安定強化、継承プログラムの策定、指導体制の確立等に向けた取組を段階的に実施する。

普及・啓発

●様々なイベントや広報活動を通じて国内外へ「空手発祥の地・沖縄」を強力に発信するとともに、世界と沖縄を繋ぐネットワークの構築により連携・交流を強化する

●教育現場等における空手の活用を積極的に推進するほか、競技空手と伝統空手を世界の空手愛好家を牽引する両輪として発展させる。

振興・発展

●法人化やライセンスビジネス等により振興会の事務局体制を強化し、県内道場の支援や国内外からの受入体制の充実等に取り組むことで、「空手の聖地・沖縄」の確立を図る。

●空手関係者と産学官が連携し、空手を活用した人づくり、空手を軸としたマーケティング戦略の構築に取り組むとともに、情報通信の活用や旅行商品の開発等を推進する。

6．ロードマップの体系

沖縄空手振興ビジョンのめざすべき将来像	将来像	主要施策	施策項目
	【保存・継承】 空手の型に秘められた精緻な技と平和を希求し礼節を重んじる精神性が正しく次世代へ受け継がれている。	技及び精神性の継承	・効果的な道場の運営や広報による門下生の増加 ・沖縄伝統空手道振興会版の継承プログラムの策定 ・各流派や道場間での技術講習会情報交換会の開催 ・型の技術体系書等の教材の整備 ・指導体系書及び精神性に関する解説書の策定 ・国内外の空手愛好家への型の運用法に加え道徳的な指導 ・最新のスポーツ科学を取り入れたトレーニングメニューの実施等による空手の技術向上
		沖縄空手関係団体・流派・道場間の連携	・振興会の組織運営基盤の強化及び同会を通して道場へ運営資金が供給される仕組みの構築 ・流派連絡会の設置による技術講習会や情報交換会の実施 ・道場の運営基盤の安定強化（運営資金の確保策の構築） ・国内外の空手愛好家を道場にコーディネートする際の適切な指導料金体系の設定
		公認段位制度	・公認段位制度の創設
		ユネスコ無形文化遺産への登録等	・県指定無形文化財保持者の追加認定 ・ユネスコ無形文化遺産登録に向けた気運の醸成
		学術研究・体制	・沖縄空手会館の展示施設の充実 ・高等教育機関と連携した研究活動
	【普及・啓発】 空手を取り巻く環境変化を的確に捉えた施策の推進により世界中の空手家が「空手発祥の地・沖縄」を認識している。	空手発祥の地・沖縄	・国内外への「空手発祥の地・沖縄」の発信 ・国内外での沖縄空手の披露と県内セミナーの実施 ・国内外のイベント会場における演武披露 ・世界各国への沖縄空手支部設立による連携強化 ・沖縄空手大使の設置による各国への普及啓発 ・ギネス記録更新に向けた「空手の日」と「ｳﾁﾅｰﾝﾁｭ大会」との連携
		武道教育と空手の活用	・教育関係機関との連携による学校での集団演武 ・新たな幼児向けの型の創作 ・子ども向けのキャラクターや絵本の制作 ・来沖した海外空手家と子どもの交流の場の創出 ・新たな魅力の発信（女性向け空手エクササイズ等）
		競技と伝統	・世界で実施されている空手大会やｾﾐﾅｰ等の県内誘致 ・沖縄空手国際大会の定期開催に向けた仕組構築 ・沖縄空手案内センターの機能強化と受皿となる道場の運営基盤の強化
		競技力の強化	・オリンピック等をめざす空手家への支援策の検討
	【振興・発展】 空手家が豊かな人生を歩む「空手の聖地・沖縄」が確立されて空手による産業振興が図られている。	振興・発展の全体戦略	・「空手の聖地・沖縄」の確立 ・ロールモデルの策定 ・空手のコンテンツ制作 ・空手の魅力を伝える演武会等の開催 ・強力な事務局体制の構築 ・社会経済状況等の変化を見据えながら施策推進
		人づくり	・産官学連携による空手を活用した人づくりの体系化 ・空手を軸としたマーケティング戦略の構築 ・エンターテイメント作品の制作による人材育成 ・来訪する外国人に向けた空手の普及活動の推進
		情報通信の活用	・空手に関するアプリケーションの開発 （沖縄空手情報にアクセスできるシステム構築）（空手関連商品の開発）（昇級昇段試験の管理）
		産業振興	・空手を組み込んだ旅行商品の開発 ・長期滞在型宿泊施設の整備 ・平和と伝統文化を学び体験できる観光地としての拠点形成 ・ライセンシングによる権利保護と活用 ・ﾌﾗﾝﾁｬｲｽﾞ方式（経営方式提供型）による道場運営の検討 ・空手家の生活基盤の安定化に向けた多様な金融支援策の検討